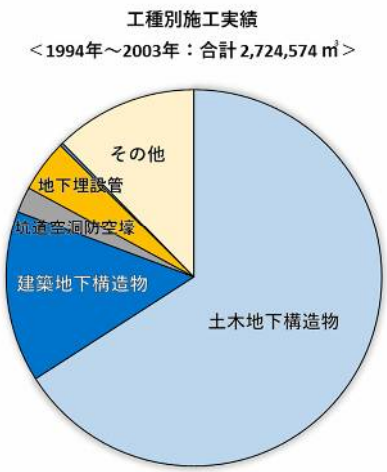
流動化処理土（LSS）の施工実績と用途の変遷

建設省総合技術開発プロジェクト「流動化処理土の利用技術開発」（1992～1996 年度）の一環として、土木研究所と日本建設業経営協会の共同研究が開始され、続いて東京・横浜国道事務所でフィールド試験工事が実施されたことで、流動化処理工法の実用化の道が開かれました。以来、約 30 年が経過しようとしています。

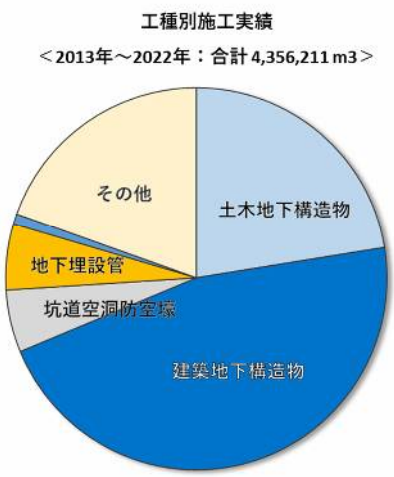
当組織は、工法の普及と技術開発を目的に 1997（平成 9）年に設立され、会員が施工する累計施工実績は昨年 1000 万m^3を超えるに至りました。建設発生土のリサイクル促進の機運と、地下の狭あいな空間への流し込みと、その固化を待って密実な埋戻し充填がかなう特徴が受け入れられ、当工法は資料 1 に示す安定した普及の経過をたどりました。

その間、資料 2 に見るように初期の 10 年間（1994～2003 年）は主として「土木地下構造物」の用途に使われた傾向が、直近の 10 年間は「建築地下構造物」に置き換わり、また「その他」の用途が増加しました。当初 10 年間の合計実績 273 万m^3は 436 万m^3となりました。

資料 1：年度別累計施工数量



資料 2-1：工種別グラフ（初期）



資料 2-2：工種別グラフ（最近）